

日常使いが、いざという時の備えに。
地域をつなぐ、今もこれからも

地域 ICT プラットフォーム
結ネット

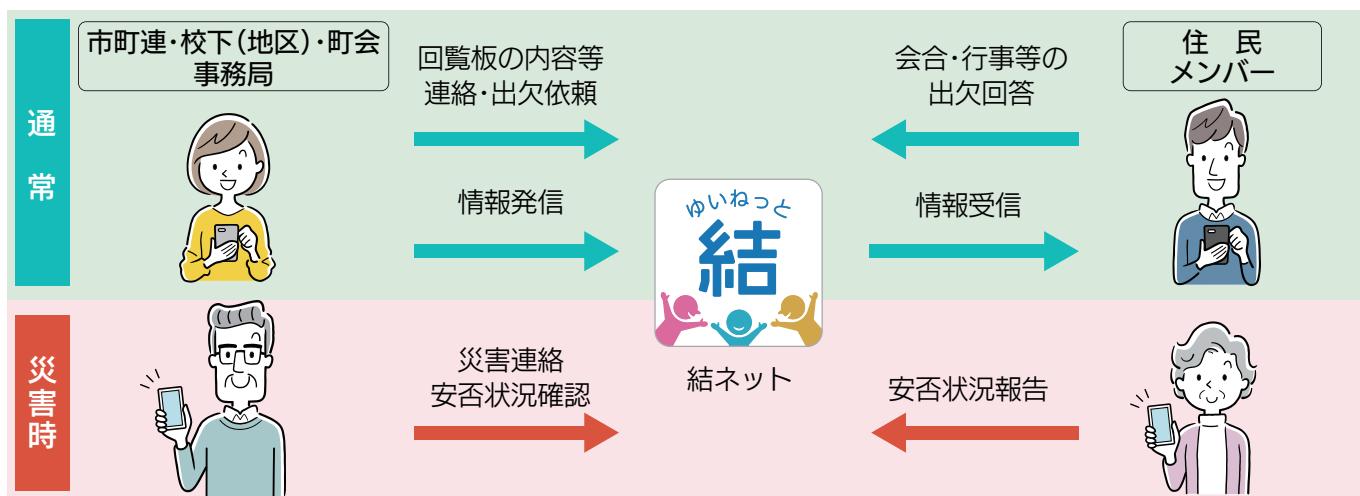
活用事例集



「結ネット」とは？

地域 ICT プラットフォームサービス「結ネット（ゆいねっと）」は、町会等地域団体や各種団体において、通常は地域の電子回覧板や自治体・事務局等からの情報受発信ツールとして利用し、災害時には安否確認システムとして活用できるスマートフォンのアプリです。

- 連絡網機能 … 地域内に情報配信を行う
- グループウェア機能 … 地域行事などの出欠確認や各種調査を行う
- 地域情報配信機能 … 自治体などの情報配信を行う
- 災害時安否確認機能 … 災害時の安否確認を行う
- 自動翻訳・音声再生機能 … 記事内容の翻訳や読み上げを行う



金沢市における「結ネット」の活用に関する協定

令和3年4月27日、金沢市では、地域コミュニティの活性化及び市民の利便性向上等を図るため、地域ICTプラットフォームサービス「結ネット」を活用した取組に関する協定を、金沢市町会連合会及び株式会社シーピーユー*との三者で締結しました。

以降、各団体が連携協力のうえ、「結ネット」の活用に取り組んでいます。

*株式会社シーピーユーは、「結ネット」の開発元です。

連携協力事項

- 結ネットを活用した町会活動等の活性化に関するこ
- 結ネットを活用した情報発信に関するこ
- 結ネットを活用したまちづくりに関するこ
- 結ネットの利用促進に関するこ
- その他、目的の達成のために必要なこ

地域コミュニティ ICT 活用促進事業

電子回覧板アプリ等の普及に関する補助金

地域における情報共有及び発信並びに若い方の町会加入を促進し、校下（地区）町会連合会及び町会の活性化を図るため、電子回覧板等アプリなど ICT を活用した町会等の運営を支援します。

対象団体	校下（地区）町会連合会 ※町会が助成を受けたい場合は、校下（地区）町会連合会がとりまとめの上、ご申請ください。
補助金額	補助対象経費の 3/4 以内 ※限度額は、各校下（地区）の町会加入世帯数に応じて異なります。
補助対象経費	電子回覧板等アプリの利用料、町会ホームページの制作料、 スキャナの購入等に要する経費 など <例> 電子回覧板等アプリ（結ネット等）にかかる初期設定費用、 システム保守費、利用料、出張導入サポート費、マニュアル印刷費 等 ※パソコンなどの備品購入費、修繕費、工事費は、補助対象になりません。

お問い合わせ

金沢市 市民局 市民協働推進課 TEL.076-220-2026

金沢市町会連合会

内部の情報共有ツールとして活用



以下のような情報を配信し、
役員間等での迅速な情報共有に努めています。

- 役員会、理事会等の開催案内・出欠確認
- 各種お知らせ、資料提出依頼
- 補助制度等の地域コミュニティ関連情報
- 避難所開設等の防災情報
- 市からの班回覧物データ など

金沢市町会連合会
・
金沢市

校下（地区）町会連合会
・会長
・事務局
・町会長 等

結ネット 導入モデルケース スケジュール

結ネットの導入におけるモデルケースをご紹介します。

導入希望の町会などの運用事務局の方と、開発元の株式会社シーピーユー (CPU) が直接やり取りを行い、導入に向けて取り組んでいきます。町会で解決したい問題点の抽出から結ネットで解消できる方法などを相談しながら、課題解決に向けて結ネットの運用を目指していきます。

町会などの
運用
事務局

開発元
CPU

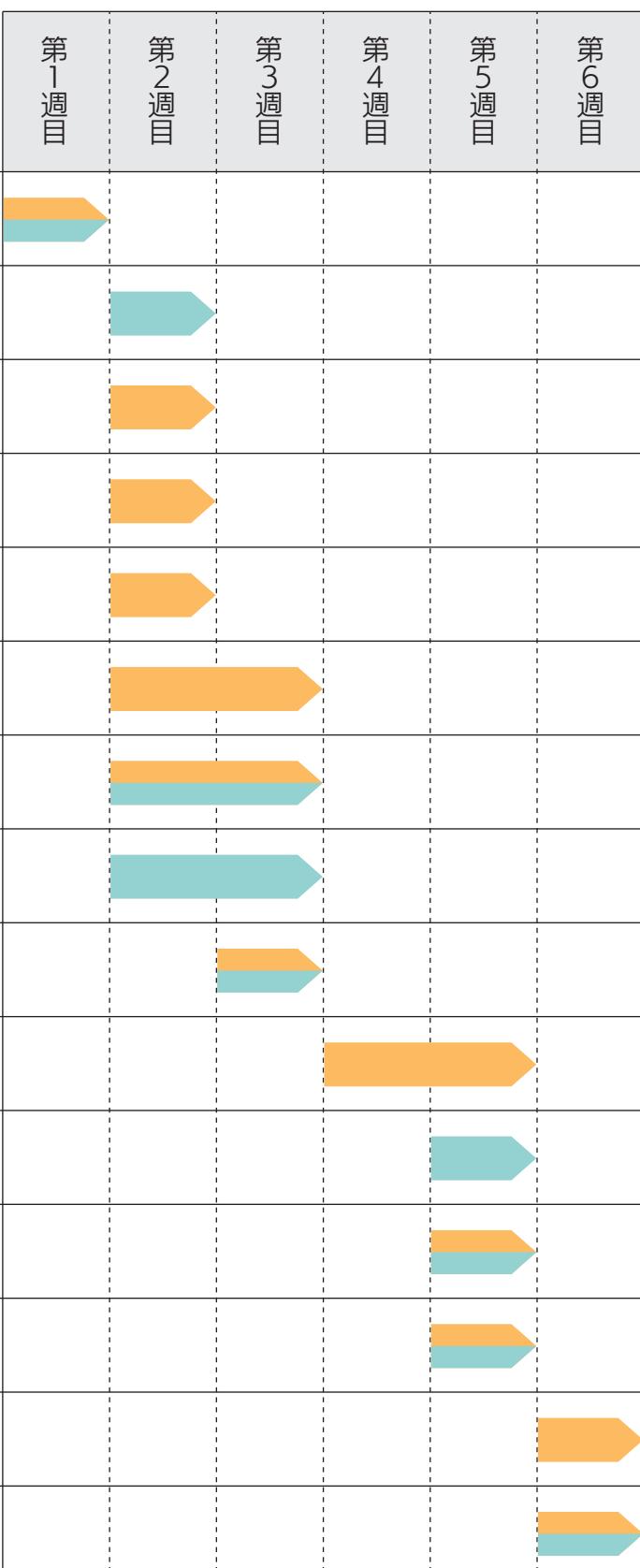
検討フェーズ	① 打ち合わせ・ヒアリング	利用対象、世帯数、運用方法など町会の要望を確認します。	
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
試行フェーズ	② ご提案・お見積り	打ち合わせ内容を踏まえ、CPU からプランの提案と見積りを提示します。	<input type="radio"/>
	③ 利用者登録リストの作成 ^{※1}	利用者の登録方法によっては、事前に利用者登録用のリストを運用事務局が準備します。	<input type="radio"/>
	④ 運用担当の選定	運用事務局と CPU との連絡窓口を決めます。	<input type="radio"/>
	⑤ 補助金の申請	「電子回覧板アプリ等の普及に関する補助金」の申請書を町会連合会を通じて提出します。	<input type="radio"/>
	⑥ 結ネット標準版の試行	標準仕様の結ネットのサンプルで操作性などを試します。	<input type="radio"/>
	⑦ 運用担当への操作レクチャー	結ネット標準版を用い、運用事務局は結ネットの基本操作を習得します。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
運用フェーズ	⑧ マニュアルなどの提供	結ネットの基本操作を解説した資料を提供します。	<input type="radio"/>
	⑨ 結ネット専用版の作成	利用する町会に応じた結ネットの仕様を確認し、専用版を作成します。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
	⑩ 結ネット専用版の試用	専用版の結ネットで運用を試行します。 ※試用期間は要相談。	<input type="radio"/>
	⑪ 結ネット専用版の調整	正式運用に向けて、⑩の結果をもとに結ネットの仕様を調整します。	<input type="radio"/>
	⑫ 住民への周知方法の検討	住民への結ネットの展開について、案内文やチラシ配布などの周知方法を決めます。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
	⑬ 住民向け説明会開催の検討 ^{※2}	住民を対象とした結ネットの使用方法などを案内する説明会の内容を決めます。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
	⑭ 結ネット専用版の正式運用	⑪を反映した結ネット専用版を住民に展開し正式運用を開始します。	<input type="radio"/>
	⑮ 災害時の要配慮者対応の検討	結ネットが利用できない方に対する対応を確認します。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>

※1：必要に応じて、利用町会にて対応いただきます。 ※2：必要に応じて、別途費用がかかります。

検討から運用までは

およそ **1~1.5ヶ月**

※ 2週間程度の試用期間を想定。



使い方をみんなで共有 結ネット運用担当者交流会

主催：金沢市 市民局 市民協働推進課

協力：株式会社シーピーユー

「結ネット」の各地域の運用担当者が集まって、運用に関するノウハウや悩みの共有を行うことで、よりよい活用のヒントを得るための交流会を開催しました。

2019年から「結ネット」を正式運用している米泉校下町会連合会から ICT 推進委員会 平田氏を講師に迎え、日常の電子回覧板としての利用方法をはじめ、災害時を想定した安否確認訓練の事例を紹介いただきました。

参加者同士で活発な意見交換が行われ、有意義な会となりましたので、引き続き開催を予定しております。

こんな方におすすめ

- ・地域の結ネットの運用に悩んでいる
- ・導入した結ネットの利用率が上がらない
- ・結ネットの導入を検討中で実際に運用している地域の声が聞きたい
- ・他地域の結ネット担当者とつながりたい



結ネット 災害時の安否確認の流れ

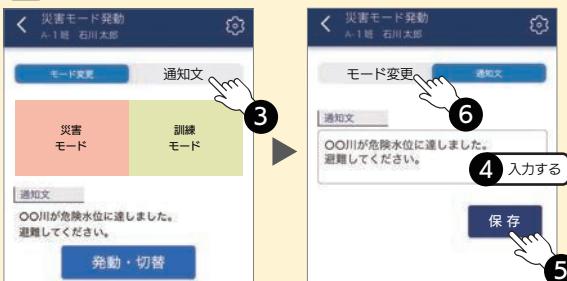
結ネットによる安否確認の操作の流れです。

準備

1 災害モードを発動する



1 まず、発動時の通知文を作成・保存します。

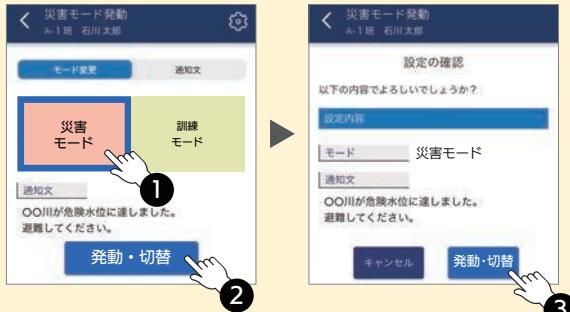


4 安否状況の集約

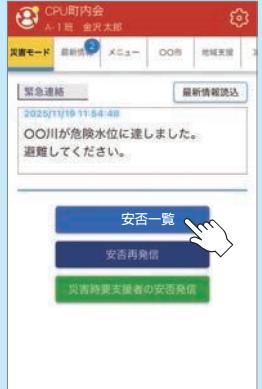


2 次に、モードを選択し、発動します。

災害モード *災害モードは、全利用者が対象となります。

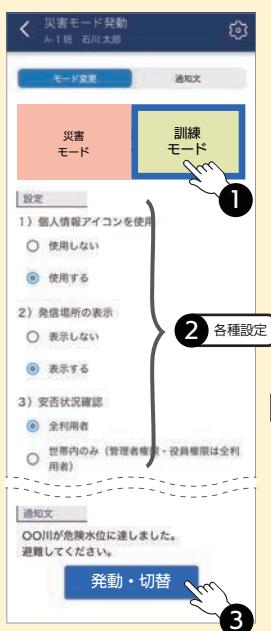


3 安否状況の確認



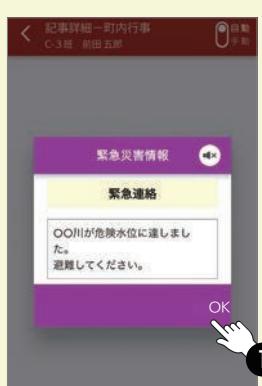
災害本部（町会・町会連合会）

訓練モード



訓練用のため、対象者を
限定したり、プライバ
シーに配慮できる設定を
行ったりして、発信がで
きます。

2 安否状況の発信



安否確認班（班長）

住民

発災時に備え、訓練で流れを確認しましょう。

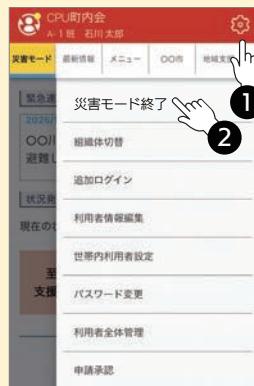
訓練実施

訓練後

5 災害モードを終了する

各班の報告をもとに、全住民の安否状況を集約します。

リアルタイムに状況を把握できます。



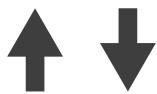
確認

災害モードを終了します。よろしいでしょうか？

キャンセル

OK

結ネット Web で、安否状況一覧 (CSV ファイル) をいつでも確認できます。記録や報告用として利用できます。



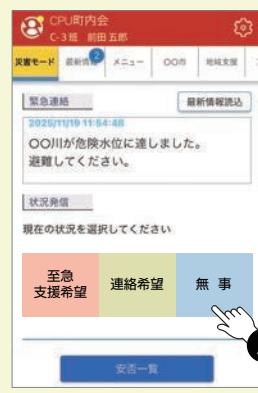
自身が担当する班などの住民の安否を確認します。
「無事」と回答した以外の方の状況を重点的に確認します。

班などの所属で絞り込みます。

ステータス (支援希望・連絡希望・未読・既読・未ログイン) で絞り込みます。

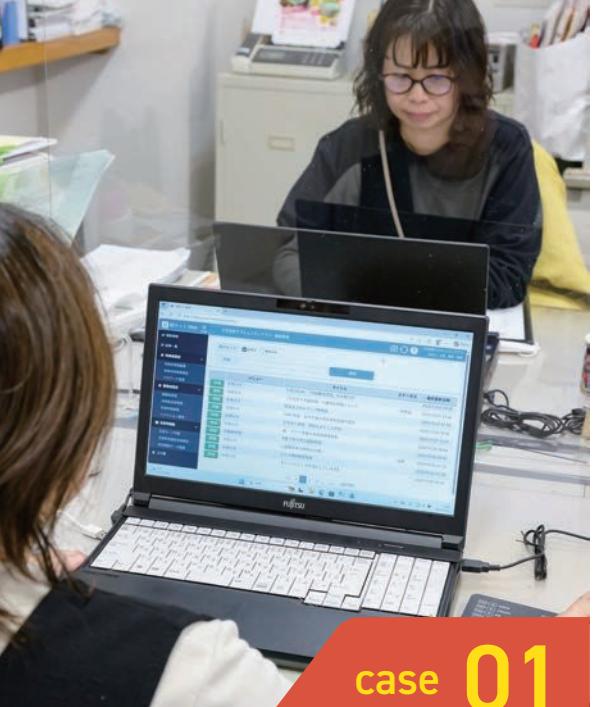


*災害モードの例です。



「安否一覧」から対象者を選び、
「安否発信」で代理で状況を知らせることもできます。





case 01

夕日寺校下町会連合会



▲記事の閲覧状況をスマホで確認

安否確認のスピードと効率を大きく向上させる仕組み

自主防災訓練では、2024年から「結ネット」を活用した一斉安否確認訓練を実施しています。黄色のタオルによる安否表示に加え、参加者の約6割が「結ネット」で応答し、数分で状況を把握できる迅速さを実感しています。今後は、集まった情報から次の行動につなぐ流れを整理し、より災害に強い地域づくりを目指していきます。

情報共有のかたちを進化 即時性と双方向性で防災力向上

- 熊出没など緊急情報を即時に一斉配信
- 災害時の安否確認を双方向で効率化

夕日寺校下は、医王山の裾に広がる里山地区で、約1,600世帯が暮らしています。「結ネット」は2021年4月から約4ヶ月の試用期間を経て本格運用を開始しました。現在の世帯カバー率は約70%で、未加入世帯への周知を進めるとともに、転入者向けのスタートキットに「結ネット」の資料追加も検討しています。

“知らせる”から“つながる”情報伝達

導入の決め手は、相互通信ができる点です。「結ネット」導入の6年前、熊の出没を知らせるためメールシステムを利用していましたが、情報は一方通行でした。そこで、即時性と双方向性に着目し、「結ネット」へ切り替えました。行事の出欠や安否情報のやり取りが可能になり、円滑な意思疎通につながっています。

日常使いが、防災力を高める

電子回覧板として利用しながら、「結ネット」は防災ツールとしての活用も進んでいます。この地区は水を含むと地盤が緩みやすく、2022年には住宅地近くで土砂崩れが発生しました。さらに能登半島地震も経験したことで防災意識が高まり、防災訓練では「結ネット」の災害モードを活用した安否確認訓練も実施しています。



▲2025年度自主防災訓練の様子



case 02

米泉校下町会連合会



▲ 防災訓練における結ネット相談ブース

伏見川の水位や道路状況を地域の住民へ即時配信

2025年8月の豪雨では、「結ネット」が地域の状況を住民に迅速に伝えました。早朝の伏見川氾濫警戒水位超過を皮切りに、道路やアンダーパスの冠水、通行止め、交通渋滞などを随時配信しました。さらに、避難所開設の案内や安否確認にも活用し、迅速で無駄のない情報共有を実現しました。

災害に強いまちづくりへ「結ネット」を幅広く活用

- ・ 災害モードで仮想防災訓練を実施
- ・ 発災時に伏見川の水位や道路状況を配信

米泉校下は、伏見川が中央を縦断し、約1.3kmに約3,200世帯が密集しています。市内でいち早く「結ネット」の導入検討を始め、試用期間を経て2019年4月に正式運用を開始しました。現在は町会や各団体に加え、学童クラブや二十歳のつどいなどでも活用し、校下全体のプラットフォームとして運用しています。

当初から防災活用を見据えた導入

「結ネット」は、電子回覧板や問い合わせ、行事の出欠確認などに日常的に利用しています。導入の最大の目的は、災害時における町会の情報連携の強化でした。この地区では、1974年7月の伏見川氾濫による洪水被害の経験や、雨季に増水しやすい環境から、防災意識の高い住民が多いのが特徴です。

仮想防災訓練が発災時の迅速対応につながる

2019年から毎年7月と11月に、「結ネット」の災害モード機能を使った仮想防災訓練を実施しています。校下内にいなくても参加でき、リアルの訓練より参加者が多いのが特徴です。こうした訓練の積み重ねにより、能登半島地震や豪雨の際にも、訓練時と同程度の安否状況が発信され、迅速な状況把握につながりました。



▲ 実際に配信した結ネットの画面



case 03

田上新町町会



▲ 支援物資を呼びかけた実際の記事

発災時に慌てないための事前の防災訓練

2023年8月、「結ネット」の災害モード機能を使って防災訓練を実施しました。この際、町会の役員が災害・避難情報を発信し、住民が実際に安否回答を送信する手順を確認しました。一度、操作を体験しておいたことで、発災時に慌てずに済みました。多言語翻訳機能があるため、外国人住民に情報提供できる点もメリットに感じています。

災害時の「共助」をスマホで加速 安否確認から支援まで迅速に

- 訓練で身につく、発災時の迅速対応
- デジタル活用による物資支援と共助の促進

私たちは約420世帯の町会です。2025年はコロナ禍等で中止していた「納涼盆踊り」を復活させ、子どもたちが大いに喜ぶ姿が見られました。2021年に導入した「結ネット」は、導入率が90%を超えていました。一部の班では紙の回覧板を完全に廃止するなど、ペーパレス化と情報共有の円滑化が進んでいます。

90%超が応答した迅速な安否確認

2024年1月1日の能登半島地震では、田上新町で斜面崩落などの大きな被害が出ました。町会は発災後まもない16時半頃、「結ネット」で避難情報を発信すると同時に災害モード機能を活用して安否確認を実施しました。世帯ベースでの回答率は90%を超え、迅速な状況把握に大きく役立ちました。

支援の呼びかけが共助を加速

避難所でバスタオルが不足した際、「結ネット」で協力を呼びかけると、1、2日で十分な物資が住民から集まりました。さらに、町外へ避難した世帯への連絡や見舞金手続きでも、「結ネット」を通じて連絡と本人確認を行うことで、迅速な支援を実現し、「共助」を後押ししました。



▲ 防災士を交えて防災グッズの備えを検討



case 04

戸板校下町会連合会



▲ 11月の防災訓練の様子

町連と市民防災訓練を協力して開催し、 結ネットを活用した地域防災力の強化に期待



市では毎年 11 月、3 つの町会連合会と合同で市民防災訓練を開催しています。「結ネット」を導入している連合会では、訓練の中で安否確認機能を活用しており、防災意識の高さを感じています。また、日常的に使っているアプリだからこそ、緊急時にも円滑に操作できる点は大きな強みです。「結ネット」で防災情報も配信しており、市としても防災ツールの一つとして積極的な活用を期待しています。

金沢市 危機管理課

紙の回覧板の課題を解消 若い世代にも広がる防災活用

- 行事参加の機会を公平に確保
- 防災訓練を通じた機能周知と登録促進

戸板校下には市内で 2 番目に多い約 5,900 世帯が居住し、子育て世帯が比較的多く、高齢世帯が少ないのが特徴です。「結ネット」を導入したのは 2022 年 9 月で、2 ヶ月ほど試験運用したのちに、本格運用を始めました。現在、導入世帯は 30% 弱と普及率はまだまだなのが実情です。

タイムラグなく情報が行き渡る

「結ネット」を導入した理由は、情報をほぼ同時に全員へ届けられる点です。紙の回覧板では世帯数が多く、受け取る順番による時間差が生じていました。そのため、行事やイベントを先着順で募集すると、後半の世帯が参加できないという課題がありました。若い世代が紙よりアプリを好む点も、導入のポイントです。

子育て世帯から高い関心

2025 年の市民防災訓練では、「結ネット」を使った安否確認訓練を実施しました。小学校の日曜参観に合わせて体育館で開催し、約 2,000 人が参加しました。当日は紹介ブースも設け、訓練をきっかけに多くの保護者が家族でアプリ登録を行いました。子育て世帯の関心の高さがうかがえ、活用の可能性が広がりました。



野町町会連合会



▲ 電気使用量が少ない旨を検知

スマートメーター活用

見守り対象のひとり暮らしの方の電気使用量データを収集・分析し電気の使用が確認できない場合に、「結ネット」を通じて、離れて暮らす親族や見守り関係者に通知します。

電気使用量で変化をキャッチ

プライバシーに配慮

暮らしの変化から気づく安心 IoTで支える地域の見守り

- 見守りを仕組みで補完し、負担を分散
- 親族と地域が連携する継続しやすい見守り

2021年、旧野町小を改修した「金沢未来のまち創造館」の整備を機に、ICTを活用したまちづくりを目指して「結ネット」を導入しました。現在、約1,500世帯のうち、町会役員や社会福祉協議会役員、民生委員、防災士ら約250人が使用しています。高齢化率が35%と高く、町連と社協が密に連携しているのが特徴です。

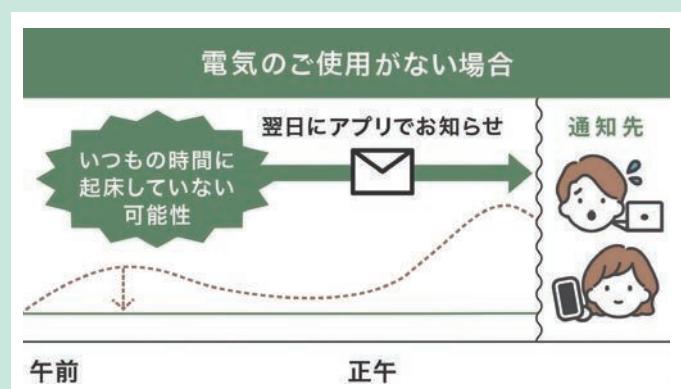
地域が連携する見守り体制を構築

2023年からIoT電球と連携した見守りを実施しています。点灯状況から普段と異なる状態が確認された場合のみ、「結ネット」を通じて遠方の親族に加え、社協や民生委員、町会長などへ通知します。仕組みで見守りを補完することで、特定の人に負担が集中せず、地域全体で支え合える体制を整えています。

暮らしに合わせた機器選択で、無理なく継続

IoT電球のほか、電気使用量の変化から見守るスマートメーターとの連携も試験導入しています。いずれもWi-Fiや工事が不要で、手軽に導入できます。利用者からは好評で、親族とも「結ネット」を通じて意思疎通がしやすくなりました。ひとり暮らしの高齢者が増える中、家族と地域が無理なく関われる見守りの形を目指しています。

いつもの暮らしを基準に、変化を察知





case 06

米泉校下町会連合会



▲ マゴスピーカーで送られた音声伝言を確認

マゴスピーカー連携

声でつながり、日常の安心を支える

結ネットと、株式会社クレバーラクーン製の高齢者専用端末「マゴスピーカー」を連携することで、デジタルデバイド（情報格差）の影響を受ける方にも、速やかな情報提供と、災害時の安否確認が行えます。加えて、日々の見守りとしても利用できます。

お知らせを
音声で届ける

ボタン1つで
安否発信

人感センサー
による見守り

ボタン操作でつながる安心 ひとり暮らしの高齢者の見守りに

- ボタン操作だけのシンプル設計
- IoT 機器を介して地域と日常的につながる

米泉校下の高齢化率は約 25%に達し、ひとり暮らしの高齢者も一定数います。そのため、町会の有志や離れて暮らす家族が見守りや安否確認できる仕組みが求められてきました。そこで 2024 年 10 月、スマートフォンやパソコンが使えない方でも音声で情報を取り扱える「マゴスピーカー」を正式導入しました。

3 つのボタンで、無理なく地域とつながる

マゴスピーカーは「再生・了解・お話」の 3 つのボタンを備えたスピーカーです。「結ネット」からお知らせが届くと音声で自動読み上げされ、再生ボタンで聴き直しができます。了解ボタンで見守り関係者に確認したことを通知し、お話ボタンでボイスメッセージを送信でき、高齢者と地域が日常的につながる仕組みです。

センサー連動で異変を見逃さない

マゴスピーカーは人感センサーを内蔵し、一定時間反応がなければ関係者へ通知されます。「結ネット」の安否確認機能とも連携し、声で支援を求めることが可能です。普段使っている機器のため、災害時の操作も安心です。特別なネットワーク設定が不要で、電源をつなぐだけで使える手軽さも導入の決め手となりました。

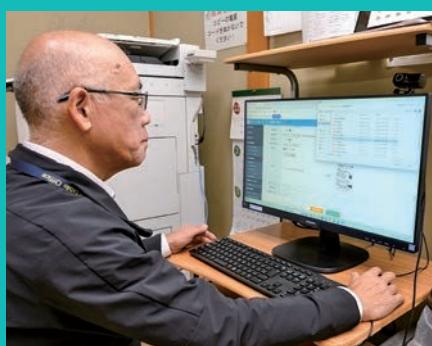


※標準ボタンは「無事・助けて・再生」になります。
上記は、米泉校下町会連合会がカスタマイズした端末です。



case 07

割出町町会



▲日々の記事はパソコンで配信

集金業務支援

集金の不安を減らし、安心を確保

結ネットには、3つの集金業務支援機能を搭載しています。町会費のような定額集金はもちろん、希望制の物品購入や催し参加などの臨時集金にも利用できます。

現 金 回 収

集金管理表として結ネットを利用します。

口座振替（自動引落）

集金代行サービス提供先（株式会社石川コンピュータ・センター）が代行いたします。
結ネット Web の管理者画面で、代金回収 ASP から銀行口座振替の予約が行えます。

クレジットカード決済

集金代行サービス提供先（株式会社コアシステムズ）が代行いたします。
結ネットの利用者画面の「電子決済」ボタンと連携します。

防災情報をタイムリーに共有 高い導入率で安心を支える

- 災害時の迅速な注意喚起と安否確認
- 情報集約で町会運営の負担を軽減

約450世帯が暮らす割出町町会では、2023年に「結ネット」を導入しました。導入1年後の登録率は約 50% でしたが、説明会や役員による個別訪問を通じてインストール支援を行うなど、取り組みを重ねてきました。アプリ登録者の町会費を優遇する施策も実施した結果、現在の導入率は約 90% を超えています。

災害時に頼れる情報伝達手段

地盤が低く、用水が張り巡らされた水害リスクの高い地域特性を踏まえ、大雨警報発令時など住民に危険が及ぶ恐れがある場合は「結ネット」で速やかに情報発信し注意喚起を行っています。防災訓練の案内にも活用したところ、多くの住民の参加があり、災害時の確実な連絡手段として定着しています。

町会業務をまとめて効率化

回覧板や広報の配信に加え、集会場の予約状況や会議の出欠確認にも「結ネット」を活用しています。町会の情報を一元的に把握でき、履歴が利用者の手元に残る点も便利です。現在は班長が町会費を集金していますが、多額の現金管理や不在宅の再訪問を減らすため、今後は集金機能の活用も検討しています。



case 08

新豊町地区町会連合会



case 09

田上地区町会連合会



結ネットと紙を併用し 無理なくデジタル化を推進

- 出欠回答をスマホで完結
- 紙併用でも全体の負担を軽減

36 町会からなる大きな組織で、「結ネット」は主に役員会などの会合案内や出欠確認に活用されています。従来は、事務局が会合の案内を紙で配布し、役員が出欠票を記入して持参するなど、双方に手間がかかっていました。

「結ネット」導入後は、役員が出欠票の作成から送付までをアプリ上で完結できるようになり、事務局側も印刷や配布、出欠管理の負担を削減できました。紙での案内を希望する役員には従来の方法を継続しつつ、現在は「結ネット」と紙を併用していますが、全体として役員・事務局ともに負担軽減を実感しています。

デジタル化で 事務作業とコストを削減

- 会合案内を紙からアプリへ
- 出欠・コメントを自動集計

これまで会合の案内は、返信ハガキを同封して郵送していましたが、環境への配慮やデジタル化推進の観点から「結ネット」を導入しました。導入前は、案内の印刷や封入、発送、返信の管理など、事務局の負担が大きい状況でした。

「結ネット」導入後は、事務局が時間と手間のかかる発送作業から解放され、出欠状況も自動で集計できるようになりました。案内を受け取る役員側からも、「いつでも出欠回答ができ、過去の案内も見返しやすい」と好評で、事務作業の効率化とコスト削減の両立につながっています。



case 10

みずき町会



case 11

二塚地区町会連合会



丁寧なサポートが高い導入率につながる

- 生活に身近な情報を積極的に発信
- 紙と併用しながら無理なく定着

回覧板や町会放送用スピーカーで行ってきた各種案内に加え、迷い猫の捜索依頼など、住民の身近なお困りごとも「結ネット」で配信しています。行政情報だけでなく、暮らしに密着した内容を扱うことで、町民にとって身近な情報ツールとして活用が広がっています。

また、定期的に町民を対象とした説明会を開催し、導入方法や新機能を丁寧に紹介することで、「結ネット」の理解と定着を図ってきました。配信直前に文章を音声で読み上げて確認できる機能も、内容確認の手段として役立っており、安心して情報発信できる点も評価されています。

警察と連携し 信頼できる防犯情報を共有

- 防災・防犯情報を一元的に配信
- 警察発信の情報を自動で共有

地域では「安全・安心のまちづくり」を掲げ、「結ネット」を行事案内の電子回覧板として活用するだけでなく、防災訓練にも積極的に取り入れています。平常時から使い慣れておくことで、災害時にも迅速な安否確認につなげることを重視しています。

さらに、金沢西防犯協会・金沢西警察署が配信する地域防犯メール「にしつ子ネット」を「結ネット」に自動連携。警察発信の信頼性の高い防犯情報を住民へ確実に届けることで、防犯意識の向上や地域全体の見守り強化にも役立っています。